

随 筆

挑戦！ 京都大学文学部

小林 英敏

歴史が好きです。しかし、いわゆる歴史小説、山本周五郎、陳舜臣、司馬遼太郎とかはあまり読みません。このあたりは父親と違うところです。現代史は差し障りがありますので、語るのは遠慮することにしています。高校2年生の時、両親の強硬な脅かしに屈し文学部進学を断念しました。このことは以前お話ししました。本格的に歴史文献を読むためには古典と漢文が必要ですので、大学入学後に勉強を開始し、源氏物語、平家物語、太平記、今昔物語、詩経、論語、孟子、大学、中庸、唐詩選などなど読んできています。並行して史学関連の原典を（現代語訳を含めて）読みました。日本のものでは古事記、日本書紀、続日本紀、信長公記、甲陽軍鑑、外国のものでは史記、三国史記、三国志、倭人伝などなどです。これらを読み続けていくうちに古代個人支配が崩壊し、そのあとに形成された不輸不入の古代末の荘園から中世土地支配への変換点を形成した土断法の（劉）宋（420-479）にひかれていきました。中国正統な王朝である晋（東晋）が滅んで南北に皇帝が存在する時代になります。この前の時代である五胡十六国の王朝は形式的には晋の皇帝から冊封された天王でした。日本では倭の五王の時代に当たります。南朝と北朝が隋によって統一されるのは160年後の589年になり、その頃、日本では磐井の乱をきっかけに大和朝廷が歴史の表舞台に登場してきます。魏の終わりごろが卑弥呼の時代、南北朝開始が倭の五王そして魏晋南北朝の終了時は大和朝廷の時代となります。旧唐書には倭国伝と日本伝があり、舒明天皇の最初の遣唐使（630）は倭国伝に載っています。日本伝が始まるのは白村江の戦い（663）以降になります。このあたりの中国と日本の交渉はめっちゃめっちゃに楽しいところですので、一献傾けながらお話ししたいところです。ともかく私にとって、歴史は文献考証ですので古文、漢文を忘れないための勉強として今でも古文、漢文のテキスト（教科書）は繰り返し読んでいます。古文は小西先生の古文研究法、漢文は岩波全書の漢文入門です。かなり難しいですがいい本です。医学の勉強する時間がないのもむべなるかなといったところでしょうか。小説を読むことは好きなのですが、亀山先生のようにドストエフスキーこれ一冊命という本には出会えませんでした。

子供のころからの読書の経歴を振り返ってみたいと思います。

残念ながら記憶力はあまりいい方ではなく、スポーツも勝負事も苦手です。幼いころの記憶も大部分は闇の中に沈んでいます。最も古い記憶はどこかに腰かけて、箱にくまの描いてあるキャラメルを食べている風景です。おそらくは5歳ぐらい、父が豆腐屋を借りた時の記憶です。祖母の話では本好きだったようですが、どんな絵本を読んだのやら何も覚えていません。覚えているのは紙芝居のこと、幼馴染のこと、暗い倉庫のようなおうち、よく躓いたでこぼこの道路、暗い長い水滴の落下する音が響くトンネル、毎日のように登った山とそこから見えた富士山。くまさんキャラメルの次の記憶は小学校三年生留守番をしながら読んだ2冊の本です。一冊はルパンの三角金、もう一冊がバーネットの秘密の花園でした。ルパンでしたら奇巖城、バーネットでしたら小公子が最初に読むべき本と思います。どうも私はメインストリートを外す癖があるような気がします。ともかく二冊の本がきっかけとなり手当たり次第に読む乱読時期が始まりました。小学生らしくたぶん学校においてあったと思われる伝記ものが中心でした。キューリー夫人、ガンジー、ヘレンケラー、シュバイツァー、野口英世などなどです。思いますが、伝記っていいことだけ書いてあるのですよね。みんな善男善女で高潔で、間違ったことは考えもしない。子供向きのお話の主人公はいつも明るく元気いっぱい周囲の人を幸せにする。どこかではなく、まるっきり日常を超えていますよね。突然、読むのが嫌になりました。変な小学生ですね。そのころ世界の民話の本を買いました。お話を今でも覚えています。ボルガの民衆反乱を指導した盲目の豎琴弾きの話で、青年時代に王様の娘に恋をして、王様に騙され全盲にされたあと放浪を重ねます。恋仲であった娘は豎琴弾きが姿を消した後ほかの男と結婚し、その男だったか子供だったかが王様となります。王様に反抗して民衆反乱がおき、豎琴弾きはその指導者となり娘と王様の立てこもるお城を攻め落とすそんな話でした。単純に何が正しい、こうすべきとは簡単に決められない。そんな子供向きの伝記では味わえないときめきを感じたことを今でも覚えています。小学館の「日本の歴史4巻本」と中央公論「世界の歴史ジュニア版」を買ったのはちょうどその頃でした。それこそボロボロになるまで読みました。小学校5年に関東学院に転向しました。司書の先生に小学生用に書き直したものではない本物の本の良さを教えられました。関東学院小学校の図書館にはいわゆる子供向きの本は少なくそのためいつも空いていました。1週間に1冊ずつ借りて読んでいました。貸出ノートを見るとファーブル昆虫記、シートン動物記、大航海時代の航海記などのなかに大鏡などがあり、ほんとに読んだの？ と疑問がないわけではあ

りません。

小学校の最後頃中央公論社から世界文学全集全54巻の紹介がきました。普通は日本文学全集から入るものなのかもしれませんが、やはり少しずれている私らしく世界文学の翻訳版から入りました。第一回配本が罪と罰でした。ロシア人の長い名前と数多い呼称、難解な筋と数多い脇の話。挫折するのも今から思えば当然だったでしょう。その後の配本もハムレット、ドンキホーテなどなど当時の私の頭ではついていけない、今でもわかるかといわれると自信はありませんが。ほとんど手に取らず本棚を飾り、引っ越しのたびに私についてきました。すべてを読破したのはつい最近のことです。中学時代の愛読書は下村湖人の次郎物語です。【白鳥蘆花に入る】【朝倉先生は言う「お互いに、この白鳥の真似がしてみたいものだね。しかし、なかなかむずかしいぞ。それがほんとうに出来るまでには、よほど心を練らなくちゃならん。自分の正しさに捉われて、けちな勝利を夢みているようでは、とても白鳥の真似は出来るものではない。良寛のような人でも、『千とせのなかの一日なりとも』と歌っているくらいだからね】。青臭いといえばその通りですが、青春とはいいいものです。少なくとも今より若かったのです。高校生になったとき図書館に旺文社文庫がはいりました。第一回配本の【坊ちゃん】から読み始めています。それ以後はダレル【黒い本】を気取って端から読みました。日本文学を本格的に読んだのはこれからでした。旺文社文庫はなぜか戦後文学が少なく、斜陽、墮落論など終戦以降の小説を読み始めるのはずっと後になってからです。日本文学は二葉亭四迷にはじまり、漱石、鷗外、宮沢賢治、井伏鱒二の山椒魚、太宰治のメロス、富嶽百景、堀辰雄の美しい村（風たちぬではないことが奥ゆかしい）、そして多喜二の蟹工船で終了という、かなり偏った文学体験と言えるでしょう。夏休みは生意気に1年では亀井勝一郎の古代知識階級の形成と2年では和辻哲郎の風土に挑戦しました。高校2年の秋からは受験勉強のため、いわゆる娯楽としての読書はしていません。ただ、現代国語の参考書の中にあつた三島由紀夫の【金閣寺】には感激しました。うまく言えませんが、一枚隔てたその先にある何か、あからさまには言うことができない。ほらねとって見せてしまうと違うものになってしまう、グリム童話によくあるパターンです。確認しておきたいのは、決して作者が表現したかったものではなく、小説が、いや文芸作品が表現しているものです。それは例えば伊豆の踊子という小説において、伊豆でも踊子でもないそれらを越えた、ある美しいものが描かれているのです。作者川端は、はじめこの作品があまり好んではいなかったようです。確かに最後の場面はすっきりしていません。懐かしさを懐かしいでは、だれにも感動を伝えることはできませ

ん。作者の意図は表現からでしか読み解くことが不可能であり、表現からでしか感動を伝えることが出来ないものなのです。それを読み取り鑑賞することが私にとっては文学の楽しみです。ま、人により楽しみ方は色々でしょうが。ここで問題です。桐壺の更衣（光源氏の母）は父である按察使の大納言の遺言で宮仕えにでるのですが、不便を忍び無理算段をしてまで宮仕えをしなければならぬような理由が大納言家にはあるはずですが、それはどのようなものと物語には描かれているのでしょうか。もちろん帝になることができなかった光源氏の物語全篇を貫く一本の太い糸です。それを理解したうえで桐壺の更衣が宿下がりにする時の『いかまほしきは命なりけり』という歌を読んだときの感動は才能のない私には言い表すことができません。名作とは持続する深い感動を与えるものなのです（ベネットの文学趣味から）。

医者になってずいぶん経ちました。医者になってから系統だった読書はできませんでしたが、大垣に通勤するようになってから気分が余裕ができました。通常2週間で1冊読み終わります。中央公論の世界文学全集もついに全巻読破しました。鶴舞図書館のおかげで昭和文学全集も読破しました。家の書棚で早く読めとっているのはプルーストの【失われたときを求めて】全10巻です。ほとんど手当たり次第という感じで読書していますが、やはり歴史の方が断然好きです。神さまにどれほどの寿命を授けていただいたのかはわかりませんが、本格的に歴史の勉強をしてみたい、ぜひ再挑戦してみたい、そんな気が強くなってきました。健康に多少の問題はないわけではありませんが、幸いにもやる気だけはあります。残りの人生をかけて目標を持って努力することもいいかなと京都大学文学部に一般入試で挑戦することにしました。2019年で挫折して50年になりますので、あと1年半で受験と目標を立てました。バカな男のアホな挑戦を見守ってやってください。

合格したらきっと私、泣いちゃいます。

（藤田保健衛生大学医学部教授）